

令和5年度 第1回いじめ問題対策委員会 議事録

- 1 開催日時 令和5年4月13日(木)
- 2 開催場所 三島市民生涯学習センター 5階スタッフルーム
- 3 出席者氏名 委員 鎌塚 優子 委員長(オンライン参加)
後藤 真希子 副委員長
三浦 興一郎
事務局 中村 雅志 学校教育課長
増田 圭子 学校教育課副参事
落合 佳宏 学校教育課特任指導主事
三田 圭太 学校教育課指導主事

4 会議の公開・非公開 一部公開

5 傍聴人の人数 0人

6 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員長・副委員長選出
- (3) 第1号議案 令和5年度三島市いじめ問題対策委員会活動計画について
- (4) 第2号議案 令和4年度いじめの調査結果について
- (5) 第3号議案 事例検討 【非公開議案】
- (6) 閉会

7 議 事

- (1) 開会
中村課長が挨拶した。
- (2) 委員長・副委員長選出
事務局より委員長・副委員長の選出を行い、承認を得た。
- (3) 第1号議案 令和5年度三島市いじめ問題対策委員会活動計画
事務局より、活動計画の説明があった。
- (4) 第2号議案 令和4年度いじめの調査結果について
事務局より、令和4年度いじめの調査結果を報告した。

(委員)

具体的にどういった取組が解消につながったと考えられるか。

(事務局)

学校から市教育委員会への報告様式を変えたことが要因の一つと考えられる。1つ1

つの事案について、「いじめの認知」の有無を確認する形にしたことで、いじめに発展する可能性がないかを改めて意識できるようになり、迅速な初期対応につなげることができた。心配のある事案については、市教育委員会より学校に連絡・助言をすることで小さいいじめも見逃さないという学校の姿勢をさらに強化することができた。

(委員)

認知件数の多さに対して、解消率が高くなっているのは、初期対応がしっかりとできているからこそ、重大事態にならずに解消へとつながっていると思う。

(委員)

発見のきっかけとしてアンケートが多くを占めているが、アンケートは小学校低学年でも実施されているのか。低学年だとなかなか記入できないという印象を受けるがどうか。

(事務局)

いじめアンケートについては、全学年で実施をしている。また児童生徒のみに実施している学校もあれば、保護者にもアンケートを実施している学校もある。

(事務局)

アンケートに加えて、学校では児童生徒1人1人と話をする教育相談も年間数回実施している。委員が心配している書くことが苦手と考えられる低学年の児童も、直接話を聞ける場面を用意することで、発見につなげることができると考えている。

(委員)

ロイヤーの仕事を受ける中で、「アンケートは有効だが、低学年が記入することは難しいのではないか」という相談を受けることがある。三島市は保護者にアンケートをしたり、教育相談をしたりすることで、低学年に対するフォローがしっかりとされていると感じた。

(委員)

発見のきっかけとして、本人からの訴えと周りからの訴えの割合が約3対1となっているが、アンケートによる発見の内容も本人からの訴えと周りからの訴えの割合は同程度となっているか。

(事務局)

全体の割合を把握しているわけではないが、学校現場にいた際の実体験を例として挙げさせていただくと、本人の訴えよりも周りが見聞きしたというところから発見につながるケースが多かったように感じる。聞き取りをしていく中で、本人に確認すると実は本人も悩んでいたことが分かったという例も多かった。経験上の話で言わせてもらえば、同程度の件数だったと感じている。

(委員)

アンケートが発見のきっかけというよりは、解決への糸口という側面も強いと考えられるため、そういう読み取り方も重要だと思う。アンケートを配れば、言えないことを

打ち明けてくれるというよりは、報告できなかつた子が報告しやすいということだと思ふ。

(5) 第3号議案 事例検討について【非公開議案】

※非公開 市内小中学校で認知したいじめに関する対応を検討

8 事務連絡

「三島市生徒指導主任・主事研修会及び第1回三島市不登校児等担当者会」で例年、いじめ問題対策委員の紹介を行っているが、日程の都合から、今年度については事務局の方で紹介を行うことを報告した。